

このファイルは、令和2年5月22日の時点で公開されていた啓林館令和2年度用「わくわく理科」の年間指導計画（2学期制案）に、横浜市理科研究会が、横浜市の一斉臨時休業からの学校再開に合わせて手を加えたものです。

つきましては、各学校の状況に合わせて調整して、管理職等とも確認した上でご活用ください。

◆再構成版の年間指導計画案について

[1] 標準時数・週あたりの時数

・小学校理科の標準時数（年間授業時数）は、次のとおりとなっています。

3年＝90時間 / 4・5・6年＝105時間

・週あたりの授業時数は、年間を通して、次のとおりとしています。

3年＝週2.5時間 / 4・5・6年＝週3時間

[2] 指導計画の表の見方

・表の1行が、時数の**1時間（45分授業）**に対応しています。

※もとの教科書「わくわく理科」では、上記の標準時数に対して「予備の時数」を確保した配當時数を設定し、余裕をもって学習を進められるようになっていますが、今回の再構成にあたっては、**「予備の時数」を減少させたり、授業の進め方を工夫する前提で配當時数を減らしたりしています。**

・今回の再編成には、学校の授業以外で取り組む活動（**学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について**文部科学省6月5日）を**特に考慮していません。**

・授業ができなかった期間と夏季休業の短縮により授業ができるようになった期間を**黄色**で表示しています。

※6月中の午前授業、7月下旬や8月中の給食のない**午前授業期間の理科に配当される時数に、特段の考慮をしていません。**

このため、表示したスケジュールで行えないこともありますので、**各学校の時間割の設定を考慮した上での指導方法の工夫や配当時間の調整が必要です。**

・**「予」と示してある予備の時間は、他単元に振り向けることも考えられる。**

・冬季休業の短縮が実施された場合に授業ができるようになる期間を、**橙色**で表示しています。

※**5月末の時点では、冬季休業の短縮は未定**ですが、12月3・4週も授業可能と表示しています。**未定なので十分な注意が必要です。**

◆感染症拡大防止に関わる学習指導上の注意点（横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン第2章19より）

・対話形式での活動、コミュニケーション活動、グループワークや実習を行う場合は一定の距離を保てるようにする。

・器具や用具を共用で使用する場合は、使用前後の適切な消毒や手洗いを行わせること。

<実験>

・実験器具の数が少ない場合は児童生徒が密集することも考えられるため、できる限り少人数にし、密集する時間を短くする。

・唾液や呼気・吸気を使う実験、密閉空間が必要な光を扱う実験、手をつなぐ必要がある実験などは、学習の実施時期を入れ替えたり、教員が演示で行ったり、事前に撮影した動画を視聴したりするなど、必要に応じて年間指導計画の見直しを行う。

<観察>

・身近な自然や植物、昆虫などを観察する場合は、観察対象を増やしたり、教員が演示で行っているところを画面に映したり、事前に撮影した動画を視聴したりするなどして、密集せずに観察できる環境を整える。

・同じ観察対象を複数の児童生徒が触らないようにする。

・屋外での活動の場合も少人数グループで活動する。

横浜市小理研 再構成版 令和2年度用「わくわく理科」年間指導計画案 【6年用】

月	週	時数	もとの単元配列	配当	標準	時数	変更後単元配列	配当	扱い方と資料
4月 (9)	2週	1	自然とともに生きる、わたしたちの地球と環境	1	1				
		1	1. ものが燃えるしくみ	8	9				
	3週	2							
		3							
		4							
	4週	5							
		6							
		7							
8									
5月 (9)	2週	1	2. ヒトや動物の体	9	10				
		2							
	3週	3							
		4							
		5							
	4週	6							
		7							
		8							
9									
6月 (12)	1週	予							
		1	3. 植物のつくりとはたらき	7	8	1	3. 植物のつくりとはたらき	7	水の通り道の実験は、ホウセンカのほかにツユクサ、カイワレダイコン等でも観察が可能である。前年度にジャガイモを植えて育てている場合には、葉で養分が作られる実験はこの時期が最適である。夏を超えると難しい。秋植えのジャガイモをこれから植えるかアサガオやインゲンマメ等で実験してもよい。 ・呼吸を使つての実験は、感染防止に十分留意する。二酸化炭素のポンペを活用することも考えられる。 【研版P135・浜実P129】
	2週	2				2			
		3				3			
		4				4			
	3週	5				5			
		6				6			
	4週	7				7			
予					予				
1		わたしたちの地球(1)	6	7	1	2. ヒトや動物の体	10	・唾液がでんぷんを変化させる実験、呼吸、吸気の成分を調べる実験は、感染防止に十分留意する。 ・「3. 植物のつくりとはたらき」は、植物と空気の実験の際に、ヒトの呼吸に二酸化炭素が含まれていることが既習事項として扱えるよう配列されている。 ・単元3・2の予備の時間や5年ものとのけ方の補充時間を工夫すると、6月や夏休み前の4時間授業の減少分を補完できる。 【研版P139・浜実P143】	
2		4. 生物どうしのつながり			2				
7月 (7)	1週	3				3			
		4				4			
		5				5			
	2週	6				6			
予					7				
3週	1	これまでの学習をつなげよう	1	1	8				
	1	自由研究	2	2	9				
	予				予				
8月	4週					1	※5年「ものどけ方」(学校図書)	6	・5年の最終単元が未履修の場合にはここで履修することも可能。 ・とくに、「ものどけ方」が未履修の場合には、6年の水溶液の性質を学習する前に履修するようにする。 【研版P139・浜実P143】
						2			
						3			
						4			
	3週	1	1. ものが燃えるしくみ			1	1. ものが燃えるしくみ	9	・理科室で実験する場合には、4人グループではなく、3・2人で1グループにし、向かい合った正面に立たないで少しずつ活動するように指導するとよい。(感染予防)
2					2				
9月	1週					3			
						4			
						5			
9月 (9)	2週	1	自由研究			1	これまでの学習をつなげよう	1	複数単元の学習内容を、空気や水の循環とエネルギーの視点で整理し理解を深める。
		1	みんなで使う理科室	2	2	1	みんなで使う理科室	2	
	3週	2				2			
		1	5. 水よう液の性質	13	14	1	5. 水よう液の性質	14	・気温が低いと実験の成功率が下がる「5. 水よう液の性質」は、夏休み後に配当し、事前に「みんなで使う理科室」で安全指導が行えるようにしています。 ※特に取り扱いの変更はない。
		2				2			
	4週	3				3			
		4				4			
		5				5			
6					6				
10月	1週	7			7				

給食無期間

